

報道関係各位  
企画展のご案内

展示作品1,000点以上  
日本の音楽シーンに革新をもたらしたアートディレクター  
信藤三雄の全貌に迫る展覧会

# ビーマイベイビー

## Mitsuo Shindo Retrospective

2018.7.14 sat - 9.17 mon  
世田谷文学館

開館時間:10:00~18:00(展覧会入場、ミュージアムショップは17:30まで)  
休館日:毎週月曜日(ただし7月16日及び9月17日は開館し、7月17日は休館)  
観覧料:一般800円、65歳以上・高校・大学生600円、  
障害者手帳をお持ちの方400円、中学生以下無料  
※団体割引あり ※7月20日(金)は65歳以上無料  
※9月17日(月・祝)は60歳以上無料

主催:公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館  
特別協力:ホワイトブリーフ  
協力:金羊社、ドゥ・ザ・モンキー、平凡社  
助成:芸術文化振興基金  
後援:世田谷区、世田谷区教育委員会

1  
展覧会ポスター

広報に関するお問い合わせ: 世田谷文学館学芸部 佐野

157-0062 東京都世田谷区南烏山 1-10-10 TEL 03-5374-9111 / FAX 03-5374-9120

## Summary

松任谷由実、ピチカート・ファイヴ、Mr.Children、MISIAなど、日本の音楽シーンをリードしてきた数多くのミュージシャンのCDジャケットを手がけ、新鮮なヴィジュアルイメージと革新的なプロダクトを生み出してきた**アートディレクター、信藤三雄**(1948～)。写真家、映像ディレクター、書家、音楽家としても才能を発揮し、その作品は各方面のクリエイターにも影響を与え続けています。本展では80年代の初期作から最新の仕事に至るまで、時代とともにあり続けたアートワークの数々**1,000点以上を展覧**し、信藤三雄のクリエイティビティの全貌に迫ります。



<sup>2</sup>  
ピチカート・ファイヴ「さ・え・ら ジャパン」  
(レディメイド・レコーズ、トーキョー/ヒートウェーブ/2001年)  
AD:信藤三雄 D:大石裕子

## Profile



### 信藤三雄 しんどう・みつお

1948年、東京生まれ。アートディレクター、映像ディレクター、フォトグラファー。

デザイン事務所、広告制作会社等を経て、1977年に独立。80年代半ば、コンテムポラリー・プロダクションを設立(～2011年)。松任谷由実、ピチカート・ファイヴ、Mr.Children、MISIAなど、日本の音楽シーンをリードしてきた数多くのミュージシャンのCDジャケットを制作し、その数は1,000枚を超える。ミュージックビデオや企業CMのディレクションも手がけ、書道家としての一面も持つ。

## Commentary

信藤三雄のグラフィックは、どこか「不真面目」の味がすると睨んでいるのである。誤解なきよう、信藤さん自身は、いたってマジメな紳士です。だが、ディレクションをしたり、写真を撮ったり、手書きの文字を書き込んだりしてワタシたちの目に飛び込んでくるグラフィックや映像には「不真面目」が潜んでいる。

ポップな音楽には、そのわかりやすさを裏切るような意匠を凝らす。オルタナティブなサウンドはポップにパッケージ化。泥臭さには洗練を。理論よりはインスピレーション。だからこそデザインのスタイルもその時々で自在に変わる。時として引用も厭わないので、「初見の既視感」のようなものを呼んでくることもある。そんなイメージのコラージュにニヤッとすれば、そこは信藤ワールド。「遊び心」という便利な言い回しがあるけれど、数千点に及ぶ作品群を前にしてみれば、そんなことは言っていられない。仕事なのだ。信藤さんのセンスをいち早く認めたいイラストレーター、湯村輝彦さんに「ヘタウマ」という言葉があることに倣えば「不真面目マジメ」とでも呼びたいような、物凄い「質と量」。

今回の「ビーマイベイベー 信藤三雄レトロスペクティブ」は、その膨大な信藤ワールドが圧縮陳列される予定である。常識的な回顧展であれば、時系列順やアーティスト別に整理するところだが、信藤さんの仕業なので、たぶん、恐らく、きっと、そうはならない。そうはならないかもしれないけれど、「時代」は確実にそこにある。ユーミンこと松任谷由実との仕事に始まって、小西康陽と出逢ったピチカート・ファイヴ、フリッパーズ・ギター、オリジナル・ラブ、サザンオールスターズ、Mr.Children、高橋幸宏、矢野顕子、MISIA、コーネリアス……（あげているとキリがないので略／そして敬称略）……と、80年代のジャケット・デザインから現在進行中のプロジェクトまで、信藤三雄は、この時代の音楽（&メディアとデバイス）と併走してきた。

故・川勝正幸は、その様を「ミュージシャンと一緒に走っている勢いがデザインにもある。要するに同時代性を感じさせる\*」と記している。

鑑賞する、というよりは、その「コンテンプラリー」をもう一度走り抜ける……そんな空間になるに違いないと睨んでいるのである。

渡辺祐(編集者)

\*『ポップ中毒者の手記(約10年分)』所収「世界同時渋谷化とCTPP上位時代」より

## Topics

### ◎コーネリアス、水曜日のカンパネラなど、数々のコンサートの舞台美術を手がけてきた遠藤治郎が会場デザインを担当！

信藤三雄が自ら空間プロデュースを行う今回の展覧会、会場デザインは、国内外のフェスやコンサートで舞台美術を手がけ、展覧会や住宅設計など、幅広いフィールドで活躍する建築家・デザイナーの遠藤治郎が担当します。  
Ref. instagram@jiroendo / twitter@JiroEndo / facebook@jiro.endo

### ◎内容たっぷり320ページ(予定)のカタログを平凡社より刊行！

主要作品の図版のほか、信藤三雄最新インタビュー、米津智之(アートディレクター)×伏見京子(スタイリスト)による対談、著名音楽家からの寄稿など、見応え・読み応え十分のカタログを、平凡社より刊行します。  
アートディレクションは、もちろん信藤三雄。  
判型:A5変形 予価:3200円(税別)  
発売日:7月14日より当館ミュージアムショップにて先行発売予定!  
そのほか書店では7月20日以降発売。  
さらに、世田谷文学館限定スペシャルパッケージ(100部限定)も準備中!

### ◎スクーターズが展覧会公式テーマソング

#### 「ビーマイベイビー」をレコーディング！

信藤三雄がリーダーを務める伝説的ガールズ・ポップ・グループ、スクーターズ\*が、展覧会公式テーマソング(カバーではなく新曲!)をレコーディング。

展覧会にあわせてレコード(7インチ)をリリースします! レーベル:VIVID SOUND

\*“東京モータウン・サウンド”をキャッチコピーに、1982年、「娘ごころはスクーターズ」でレコードデビュー。  
わずか2年で解散したものの、2012年、アルバム「女は何度も勝負する」を発表し、突如活動を再開。

### ◎展覧会連動企画

#### 『女王陛下のピチカート・ファイヴ』が遂にアナログ盤化！

商品情報 ※枚数限定で会場販売があります

『女王陛下のピチカート・ファイヴ -Analog Edition-』

MHJL-42 ¥3,700+税 完全生産限定盤

- 信藤三雄監修によるニューデザイン E 式シングルジャケット仕様
- 小西康陽監修の2018年最新リマスタリング音源
- 名匠バーニー・グランドマンによるカットティング
- ソニーDADCジャパンでのプレス

特設サイト <http://www.110107.com/PIZZICATOFIVE2018LP>

ON HER  
MAJESTY'S  
REQUEST  
-Analog Edition-  
47minutes Humour of  
PIZZICATO FIVE  
a Musical Extravaganza  
Performed by  
Tokyo's Coolest Combo  
& Orchestra



## Events

### ミッオ 320ガレージセール

7月21日(土)10:00~17:00(売切れ次第終了)

このたび信藤さんの倉庫から発掘されたコンテムポラリー・プロダクションのオリジナルグッズなどを販売する、1日限りのミニ・ガレージセール。

会場/1階ロビー

### トーク「音楽とアートワークの蜜月時代 ~“渋谷系”はなぜ生まれたのか」

8月5日(日)14:00~15:30

出演/信藤三雄、牧村憲一(音楽プロデューサー) 会場/1階文学サロン 参加費/500円

定員/150名 申込締切/7月21日(必着)

#### 申込方法

トークとレクチャーは、各締切日までに往復ハガキ(1イベントにつき1枚)に①イベント名、②参加者名・年齢(3名まで連名可)、③代表者の住所・電話番号を明記のうえ、世田谷文学館「信藤三雄展」係へお申し込みください。返信用にも代表者の住所・氏名をご記入ください。応募者多数の場合は抽選となります。結果は締切後、返信ハガキでお知らせします。

**このほかのイベント(大物アーティスト続々ブッキング中!!)については、**

**世田谷文学館WEBサイト、Twitter@SETABUNで随時告知します!!**

#### スピンオフ企画

### レクチャー「世田谷音楽図鑑 ~柳田ヒロと日本のロックの源流」

9月1日(土)14:00~15:30

日本のロックの起点は世田谷にあった。エイプリル・フル、新六文銭など伝説のバンドを支えた柳田ヒロ氏と語る。

出演/牧村憲一(音楽プロデューサー) ゲスト/柳田ヒロ(キーボード奏者) 会場/2階講義室

参加費/500円 定員/50名 申込締切/8月18日(必着) \*申込方法は上記参照

## Outline

- 展覧会名** ビーマイバイビー 信藤三雄レトロスペクティブ
- 会 期** 2018年7月14日(土)～9月17日(月・祝)
- 会 場** 世田谷文学館 157-0062 東京都世田谷区南烏山1-10-10  
TEL 03-5374-9111 FAX 03-5374-9120 www.setabun.or.jp
- 開館時間** 10:00～18:00(展覧会入場、ミュージアムショップの営業は17:30まで)
- 休 館 日** 毎週月曜日(ただし7月16日及び9月7日は開館し、7月17日は休館)
- 交通案内** 京王線:「芦花公園」駅南口より徒歩5分  
小田急線:「千歳船橋」駅より京王バス(千歳烏山駅行)利用「芦花恒春園」下車徒歩5分
- 観 覧 料** 一般800(640)円、65歳以上・高校・大学生600(480)円、  
障害者手帳をお持ちの方400(320)円、中学生以下無料  
※( )内は20名以上の団体料金 ※7月20日(金)は65歳以上無料 ※9月17日(月・祝)は60歳以上無料
- 主 催** 公益財団法人せたがや文化財団 世田谷文学館
- 特別協力** ホワイトブリーフ
- 協 力** 金羊社、ドウ・ザ・モンキー、平凡社
- 助 成** 芸術文化振興基金
- 後 援** 世田谷区、世田谷区教育委員会
- 展覧会担当** 世田谷文学館学芸部 大竹嘉彦



3  
松任谷由実「ALARM a la mode」  
(ユニバーサルミュージック/1986年)  
AD: 信藤三雄 D: Tetsuya K.B、中嶋佐和子 Ph: 川島文行

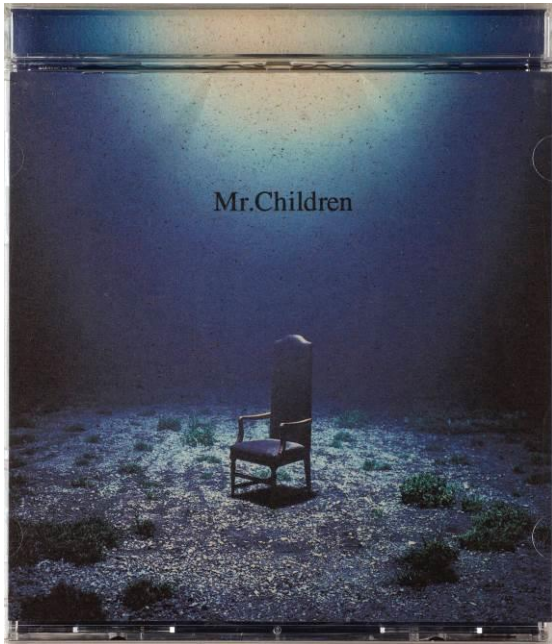
# Images



4



5



6



7



8

4  
松任谷由実「天国のドア」(ユニバーサルミュージック/1990年)  
AD: 信藤三雄 D: 手塚久美子、藤川浩一 Ph: 三浦憲治

5  
ピチカート・ファイヴ「スイート・ピチカート・ファイヴ」(TRIAD/1992年)  
AD: 信藤三雄 D: 藤川浩一

6  
Mr.Children「深海」(トイズファクトリー/1996年)  
AD: 信藤三雄 D: 大箭亮二 Ph: 野村浩司

7  
サザンオールスターズ「海のYeah!!!」(ピクチャーエンタテインメント/1998年)  
AD: 信藤三雄 D: 井出裕佳子 Ph: 鶴田直樹

8  
MISIA「Everything」(Ariola Japan/2000年)  
AD: 信藤三雄 D: 新家敏之 Ph: 富永よしえ

# ビーマイベイビー 信藤三雄レトロスペクティブ 広報用画像貸出申込書

世田谷文学館学芸部 佐野 行  
FAX 03-5374-9120

展覧会広報用の画像をご用意しています。ご希望の際は下記貸出条件をご確認のうえ、本申込書に必要事項をご記入いただき、ファックスまたはEメールにてお申し込みください。Eメール添付にてJPEGデータで画像をお送りいたします。

なお、本展紹介記事をご掲載いただく際は、恐れ入りますが情報確認のため、掲載前に校正紙をお送りください。また、発行後、掲載誌を1部お送りください。

## 【広報用画像貸出条件】

- ◆画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
- ◆画像のトリミング、画像に文字を重ねるレイアウトはお控えください。
- ◆画像データは、ご使用後必ず消去してください。
- ◆画像データを第三者に渡すことを禁じます。
- ◆インターネット上で掲載する場合には、画像をコピーできないよう処置し、会期終了後はWEBサイトから必ず削除してください。

雑誌名・番組名・WEBサイト名 : \_\_\_\_\_

媒体種別 : 新聞・雑誌・フリーペーパー・テレビ・ラジオ・WEBサイト \_\_\_\_\_

発売・放送・更新予定日 : \_\_\_\_\_

御社名 : \_\_\_\_\_

御担当者名 : \_\_\_\_\_

御住所 : \_\_\_\_\_

Eメールアドレス : \_\_\_\_\_

電話番号 : \_\_\_\_\_ FAX番号 : \_\_\_\_\_

## 画像（画像には必ず下記のクレジットを付してください）

- 画像1 展覧会ポスター \*P1掲載
- 画像2 ピチカート・ファイヴ「さ・え・ら ジャパン」(レディメイド・レコーズ、トーキョー/ヒートウェーブ/2001年) \*P2掲載
- 画像3 松任谷由実「ALARM a la mode」(ユニバーサルミュージック/1986年) \*P6掲載
- 画像4 松任谷由実「天国のドア」(ユニバーサルミュージック/1990年) \*P7掲載
- 画像5 ピチカート・ファイヴ「スウィート・ピチカート・ファイヴ」(TRIAD/1992年) \*P7掲載
- 画像6 Mr.Children「深海」(トイズファクトリー/1996年) \*P7掲載
- 画像7 サザンオールスターズ「海のYeah!!!」(ビクターエンタテインメント/1998年) \*P7掲載
- 画像8 MISIA「Everything」(Ariola Japan/2000年) \*P7掲載